

JARA 強化戦略策定タスクフォース(第 4 回)

議事要旨

(1) アンケート結果(自由筆記)の報告

- アンケートは三種類の自由記述欄を設けた。一つ目「日本代表に期待すること」については、メディアと普及活動、競技力向上と成績、選手育成と発掘、組織運営とマーケティング、国際大会での活躍についてのコメントであった。
- 二つ目の「総括に関すること」については、フランス式トレーニングの評価と継続について意見、強化方法とその改善点、選手育成と発掘、指導者の育成と体制強化について、国内外の競技力向上、組織運営とマーケティングに関する意見があった。
- 三つ目は、最後にご意見あればというところで設けた質問項目である。ジュニア世代の育成と普及、選手育成と強化について、組織運営とマーケティング、国際大会の活躍、その他提案であった。
- 一通り読んでいただき、その上で、積極的に強化戦略計画に反映すべきコメントがあれば提案してほしい。
- コメントの内容は非常に幅広い。その中で何を重視して今後考えていくべきかというのがあると思う。一定の判断をして、強化戦略計画に入れ込む必要があるが、将来のことをしっかり考えた内容でなければいけないし、一方で、現実も踏まえたものでなければいけないということも事実である。両方の点を視野に入れて、どう取組むのかということになるのではないかな。
- 私としてはやるべきこと決めていく段階にあると考えている。そこに向かって、タスクフォースも議論を進めてほしい。
- 本日提示する骨子は、具体的なところまで入っていない部分もある。アンケート結果も踏まえて意見をいただきたい。
- 強化戦略計画という名前にふさわしい中身にしていかないといけない。また、強化戦略計画は事実上 2026 年度事業から適用されるということになる。現段階では、10 月初めに公表することを目標としている。公表後速やかに強化戦略計画に沿った形で具体的な 2026 年度の強化活動計画が出来上がらないといけない。その強化計画は、おそらく強化委員会が中心になって作るものと思う。
- 時間があまりない中で、強化戦略計画の中身は当然だけでも、それを受けた形で現場の強化活動計画に落とし込めるよう、関係委員会間の連絡調整も、進めなければ上手くいかないんじゃないかな。

(2) 強化戦略計画(骨子)

- 資料に沿って説明がなされた。

(3) 意見交換

- 4 頁のロジックモデルとタスクフォースの位置づけのイメージ案について、今回の強化戦略計画は普及活動やお金を稼ぐところにはフォーカスしていない。競技人口増加や財源の獲得、広報活動など全体像の中から、急務となる強化活動について議論する建付けとしなければ、強化の話が進むと、最終的に普及の問題に直面する。全体の位置づけを工夫すると良い。
- 具体的にいうと、このロジックモデルでは最終的に JARA2020Vision を実現するためには、参画人口の増加や競技の魅力向上となっており、メダル獲得は書かれていないはず。いかにその参画人口を増やしてその魅力を高めていくのかというところをしっかりと語らないと、最終的なビジョンの実現はそうは簡単につながらない。日本代表を強くするというのは確かに重要な項目で目的の一部にはなり得るが、他のところも語る必要があるのではないか。
- 計画の取りまとめにあたり、事務局としてもその点を踏まえ、最初の頁で目的や意義を示していきたい。
- 骨子は、総括の繰り返しとなっている。我々としては、どう変えていくのかを議論したい。2026 年シーズンは 10 月から始まるが、このままで間に合うのか？最終的には財源の問題が重要。
- 骨子の書き方としては変える必要がある。スケジュール感についても強化現場に支障が出ないようにする必要がある。
- 指導者育成委員会としては、JSPO の指導者育成の方針に則って業務を行っている。タスクフォースで決まったからと言ってできないことはある。できる範囲のことはやらせていただくが、トレーニングプログラムについての方向性は示していただく必要がある。
- 骨子にある「トップクルーの引き上げか、次世代の育成か」について、トップクルーの引き上げを優先することは当然だが、国内に荒川選手レベルの選手がゴロゴロいるわけではない。Final A に行く国は次世代の育成強化も一体的に取り組んでいる。トップの強化だけを行うだけでは、10 年後競技力の低い集団となってしまう。
- またタレント発掘の失敗の裏には、各都道府県の指導環境や指導者の数などの要因もある。止めることは簡単だが、止めずに改善していく考えも重要。タスクフォースを設置して次期強化計画を考えるのであれば、10 年後、20 年後も生きよう的な絵をデザインして、それに見合う財源や体制を作りたい。
- 非常に貴重なコメントあるいはご意見なので、具体的なところは強化委員会から事務局へインプットしてもらえると非常にありがたい。要するにどう改善するのかと

いうことを一つとっても、そこには強化委員会としてのアイデアがきちんとなければいけない。

- 今の発言から、この強化戦略計画を考える主体は誰がわからなくなった。本日出した骨子は総括やこれまでの議論をなぞったたたき台である。内容が不十分であれば、強化委員会から提案があるべき。
- 強化戦略プランがあったと思うが、いかがか。
- 強化から示しているのは、2025年度の強化プラン、強化方針である。一方、2028年に向けて、とりあえずの強化戦略プランをJOCに提出している。秋に修正する可能性があるということを申し伝えているが、これはいい加減に出したものではなく、強化委員会の中でアイデアを出し、ブリスベンまでのマイルストーン、体制を記載している。それをベースに強化戦略計画に落とし込んでいけば、良いと考えている。
- とりあえずの強化戦略プランを出したが、艇の購入も見送り、ヘッドコーチも決まっていない状況で、秋に向けて急ぐ必要がある。事務局としてはこの場で議論を重ねるプロセスが大事だということですが、お互いにその先が見えていなかった。
- JOCに提出したドキュメントに書いてある内容をそのまま今度の強化戦略計画に落とし込むかどうかというのは別の議論。これまでの議論やアンケート結果を含めたときに改善しなければならない部分も出てくるかもしれない。そこは議論が必要。議長としての希望は、強化委員会は全ての計画立案を事務局へ丸投げするのではなく、現場の具体的なことについて積極的にインプットすべき。
- 本来、この強化計画の事務局は一貫して企画戦略委員会が行っているが、強化委員会や医科学委員会などほかの委員会の協力も得て作るものである。インプットがなければ、強化戦略計画は現実からますます離れる事になりかねない。そんなことをJARAとしてやるわけにはいかない。
- これまでの議論を聞きながら、会議の設計や趣旨がぼやけており、非常に反省している。基本的な考え方で何を目指してどう取り組んでいくのかという全体方針が定まらない限り、各論は決められない。JARAとしてのゴールを最初に決めるべき。
- 事務局からアイデアを出してもらい、強化委員会も納得する形で作り、各論に落とし込んでいただくとよい。フルテキストを出すにあたっては、事前に強化委員会とも調整し、できる限り両委員会で合意に近づくような形の原案を出してもらいたい。なかなか大変かもしれないが、関係者の皆さん一つ頑張ってよろしく願いたい。
- JOC/JPCに提出する強化戦略プランは、具体性が高い。例えば10年、20年の中でどう財源を確保していくか、競技人口自体をどう増やすかということは書く項目がない。その代わり、KPIの細かい設定は求められる。レベル感がずれているので、強化戦略プランをベースに、もう少し上位概念や長期の話を足していくのが良い。
- 強化戦略プランについては強化委員長と相談し、提出する。先ほどのゴールとはどんなゴールか。

- 金メダルを目指すのか、決勝進出を目指すのか、オリンピックに出場することを目指すのか、そのあたりが今の活動からは見えてこない。金メダルを目指して2位かもしれない、でも6位を目指しては金メダルはあり得ない。目標設定が違うことで不幸にならないよう、協会としてどこを目指し、どういう道筋で達成しようとしているのか、共通認識を図る必要がある。
- 金メダル目指すのか、Aファイナル出場を目指すのか、大きく違う。日本らしい目標というのはどの辺か。実際6位以内に入れば大したものだと思ひ、でも目標が6位でいいのかという問題はある。
- 種目についても、いつまでもシングルスカル、ダブルスカルが中心のままでいいのか。ペアが新たに入ってくる可能性もあると思ひ、ロングボートでもいきなりエイトは無理ならフォアを頑張るかという考え方もある。どう組み合わせたらいいのか、非常にプロフェッショナルな判断が必要である。
- 強化戦略プランは、コースタルやパラローイングも共有していただいた方がよい。
- 強化戦略計画と合わせてヘッドコーチは重要なファクターである。指導者育成委員会のテクニカル部会ではどのような議論がなされているのか。
- コーチのテクニカル部会は、今、走り始めたところである。コーチの選出や推薦については言及していない。
- JARAとして、今現在ヘッドコーチについて正式な考え方はないと理解している。強化戦略計画が完成し、来年度以降これに沿ってやっていくということになるから、できる限り時間的なフェーズに合うように、ヘッドコーチが選出されることは望ましい。その場合、どのようなやり方で選ぶか。
- 日本のナショナルコーチ全体に言えることだが、率直にどのような基準で選んでいるかは不明。そのままでいいのか。今回の強化戦略計画の中の検討事項の一つに、コーチの選定の問題がある。これをどう考えるのかということが重要なファクター。
- 強化の現場の考え方も十分頭に入れながら対応していかなければいけない、JARAとしての問題である。
- 指導者育成委員会に設置されたテクニカル部会では、コーチ選定の話をする機能を持ち、議論していると理解したが、いかがか。
- どんなヘッドコーチを選ぶべきかというのは、これもまた非常にプロフェッショナルな問題である。選考委員が必要。その選考委員が選考基準をちゃんと作り、自分たちの責任で選ぶというのが本来のあるべき一つの姿ではないか。
- ヘッドコーチの要件や選定基準の中では、結果にコミットし、そこに対する責任が権限を明確にしていきたい。選考委員は、何を持って目標達成と評価するのかまで考えなければならない。
- 国際的なリーダーを選ぶ場合、厳格な方法で行われる。2段階の書類審査があり、ショートリストで残して最終インタビューをやる。みんなが納得するリーダーを選

ぶことが重要。その通りできるかどうかという問題もあるが、国際的なプロセスを頭の中には入れておく必要があるのではないか。

- これまでは、ヘッドコーチを採用し中期プランを考えてもらうという流れだったが、今回は既に中期プランがある状態であるから、プランに沿ったヘッドコーチを選定し採用する流れとなる。
- 当たり前の話ではあるが、これまでの JARA のやり方からは大きなチャレンジである。新しいコーチとぶつかるかもしれない。そうした場合もとことん議論し、納得すれば修正したらよい。国それぞれの事情があって、統一的な強化戦略計画というのはあり得ない。必ずしも一つのものでなければいけないということであれば、シンプルな採用基準、選定基準を作り、応募してもらって選ぶ。そういうやり方もある。
- 承知した。指導者育成委員会のテクニカル部会で意見をまとめる。

(4) 第5 回に向けて

- 本日はアンケート結果強化戦略計画が議題であった。強化戦略計画については、冒頭の基本的な考え方には、計画を作る目的を大きめの概念で見直し、それを踏まえて、案を作った上で個別の各項目については計画らしい書き方とする。
- 書き直してもらったものに肉付けをして、原案という形で出していただきたい。
- それから原案を作るにあたり、事務局で原案の原案は作るわけだが、その原案がこのタスクフォースに出てくる原案となるためには、強化委員会との調整を経たものとして出してもらいたい。全て合意できなければ、それはまたタスクフォースの場で議論すれば良い。そういうつもりでやってもらいたいし、強化委員会もぜひ積極的にインプットしてください。それはお願いしたい。